

はじめに

公益財団法人ヤマハ発動機スポーツ振興財団
調査研究委員会・担当理事
浅見俊雄

公益財団法人ヤマハ発動機スポーツ振興財団では、財団独自の調査研究活動として、2012（平成 24）年度から「日本の障害者スポーツの現状に関する社会学的な調査研究」を行って毎年報告書を刊行し、次年度（2016（平成 28）年）以降もこの研究は続けていく予定である。さらに今年度（2015（平成 27）年）より、このプロジェクトと並行して新たに「トップスポーツの現状と課題」に着手した。

このテーマを取り上げた背景には次の 3 点があげられる。①公益財団法人ヤマハ発動機スポーツ振興財団の母体であるヤマハ発動機株式会社が古くからラグビーフットボールとサッカーの国内でのトップスポーツ・クラブを保有し、現在でもラグビーは企業スポーツとして、サッカーはプロリーグである J リーグのクラブとして、日本のトップスポーツの一翼を担っている、②ラグビーワールドカップ 2019 日本大会の開催が決定しており、静岡のエコパスタジアムで試合が行われる、③東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会の開催によって、日本のトップスポーツは大きな転換期を迎える。

さらに、今年度（2015（平成 27）年）の調査研究の進行中に、ラグビーワールドカップ 2015 イングランド大会で日本代表チームが優勝候補の南アフリカを破るという大殊勲をたて、ラグビー界が更なる躍進を遂げる可能性が高まり、本調査研究着手の契機となった。

本報告書では、その 1 年目の調査研究の成果をまとめた。

第 1 章「我が国のトップスポーツの現在地」では、日本のトップスポーツが学校運動部と企業スポーツを基盤としていた時代から、J リーグにみられるように地域に根差したスポーツクラブへの変容を俯瞰し、そうした時代変遷の中で高等学校ラグビーチーム加盟校数・登録人数の推移を手がかりに、この調査研究の位置づけを論じている。

第 2 章「ラグビーフットボールに関する認知度・関心度・観戦行動の基礎調査」では今年度（2015（平成 27）年）に実施した調査結果を報告している。全国を対象としたインターネット調査とヤマハスタジアム（静岡県磐田市）におけるラグビー試合観戦者へのアンケート調査を併用する比較分析を試みた。調査内容は、回答者のプロフィール、ラグビー観戦歴と今後の観戦意向、ラグビーに関する知識の認知度、観戦実態とトップチームへの要望などとなっている。

第 3 章「トップスポーツの未来像を描くために」では今回のラグビーに関する調査研究に基づき、国内のトップスポーツの未来像を導き出すために、トップスポーツに関する調査研究の方向性を論じている。

内容をお読みいただき、ご意見や、次年度以降の本調査研究についての御示唆などを、研究者や財団宛にいただければ幸いです。